

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



立教百八十八年
明けましておめでとうございます

昨年は教祖百四十年祭に向かう三年千日と仕切つての年祭活動二年目の年として、大教会で定めた『方針と目標』、年祭活動後半の動きとして打ち出した『毎日、喜び感謝を声に出そう』の実践項目、各教会で定めた『目標と実践項目』のもと、それぞれの持ち場立場で心を定めて一生懸命におつとめくださりまして、誠にご苦労様でした。

本年は年祭活動三年目、締めくくりの年となります。来年一月二十六日の年祭当日を、おちばに帰れても帰れなくても、「実践を通して、自分ほこれだけ成人させて頂いたんだ」という嬉しい心で迎える事ができるよう、一手一つにお互い勇ませあつて通らせていただきますよう。

笠岡大教会長

上原明勇

教祖百四十年祭 笠岡大教会活動方針

つながろう、おやさまのお心に。
つなげよう、信仰の喜びを。

活動目標

ひながたを学び、そのお心を実践しよう。

実践項目

毎日、喜び・感謝を声に出そう



教祖140年祭

立教188年
1月号

立教187年 年末大掃除

管理部

管理部(虫明立生部長)は、12月22日午前9時から教会長・ようぼく・信者ら74人が参加し年末大掃除を行った。

朝づとめ後、有志で鳴り物・結界・賽銭箱など廊下に出し、その後8時から数人で資材を神殿に搬入するなどの準備に取り掛かった。白衣に着替えた人たちで高所作業をするビデの組み立て、また社の裏や階段下のブローカーなどの事前準備を行った。

午前9時から大教会長様のお手に合わせて三殿を礼拝し、それぞれの持ち場に分かれて大教会内の大掃除が始まった。

男性は神殿内の神床・上段・中段・参拝場と順番に長梯子・三脚・ビデを使用し、はたき・ブローカーをかけ、その後水拭き・空拭きをして最後に参拝場の畳拭きで神殿内を仕上げた。

また並行して親神様の社の重みで台座が凹んだ部分を横山先生の匠な作業で修復された。

婦人会は神殿内の雑巾の手配を初め、教会内の各部屋の清掃・トイレ掃除・窓拭き・食堂ひのきしんと各部署で

勇んでつとめた。

正午を過ぎてそれぞれが使用した道具の片付けをし神殿近辺に居合わせた人たちが大教会長様と共に終了の三殿礼拝をした。大教会長様は綺麗になった神殿で心新に新年を迎える事が出来る

ると皆に労いの言葉をかけられ、それぞれに食事を済ませ今年1年の締めくくりの年末大掃除を終えた。

この1年間管理部の上にお心寄せ、お力添えを頂きました事に感謝、御礼申し上げます。(部長 虫明立生)



修養科終了生の声

芯の優しい人になれるといいな

河佐分教会 佐藤 夢叶

僕はこの3ヶ月毎日が本当に楽しくて一瞬でした。

たくさんことを学びましたが全てが凄いためになって今の僕に必要なことばかりでした。

自分が嫌いでどうしようもなかったからこそ修養科で自分を見つめ直していく上で、長所・短所を理解して改善すべきとこや活かしていきけるいいところも見つけられました。

ただその上で完璧っていうのを目指す必要はなくて自分のなりたいたい芯の優しい人になれるように少しずつ変わっていきけるといいなって思います。

この3ヶ月こんな僕と関わってくださった全ての皆さんに心から感謝いたします。そして修養科という機会を与えてくれたおじいちゃんや家族のみんなには感謝してもしきれません。本当

に貴重な体験をさせていただきありがとうございます。この修養科で過ごした3ヶ月を宝として生きていきます!

修養科に来て

錦ヶ原分教会 白 神 海 斗

私が修養科に来た理由は、自分が入っている天理教について知ることが出来る、また期間的にも区切りが着いた、そういった理由から来させていだきました。

修養科を通して、私は修養科に来られて良かったと思います。

学んで大きく印象に残ったことは、「八つのほこり」のことです。「おいしい・ほしい・にくい・かわい・うらみ・はらだち・よく・こつまん」自分の中では、おいしいの埃がよく積もります。めんどくさいの気持ちでそのうち誰かがやるだろうになってしまわないよう、率先して動くよう心がけていきます。

教養係の先生方からは、親や周りの人は常に周りにいる訳ではなく恩を返せる期間が限られていることを実体験を通じて親身になってお教え頂きました。また、同室の佐藤くんの面と向かつ

て人に感謝を伝えることができる部分を素直に尊敬しています。振り返ると自分の人生は、「両親に恵まれていた人生だったなあ」と、親様のお引き合わせのご守護に感謝を感じた修養科だったと思います。

大教会だより

◎第一〇〇〇期修養科

自 立教187年10月1日
至 立教187年12月27日

*教 養 掛(主任、副主任)

一ヶ月目 山 野 弘 実 (大教会役員)

二ヶ月目 中 島 誠 治 (上下分教会長)

三ヶ月目 竹 本 和 道 (福芦分教会長)

三ヶ月目 杉 原 善 朗 (大教会准役員)

明石市分教会長

岡 本 善 一 (神邊分教会長)

◎ 岡 本 善 一 (神邊分教会長)

*修了者

錦ヶ原 白 神 海 斗
河 佐 佐 藤 夢 叶

◎立教188年春季大祭参拝

(※誌面の都合で来月号に掲載)



昨年の大晦日、元旦祭の準備を終え

ホッとした途端喉に僅かな違和感が…。たいした事は無いだろうと思っ
ているとゾクゾクつと悪寒がしてき
て、まさかと思つて体温を測ったら38
度5分。最悪のタイミングでインフル
エンザになってました。元旦祭、年頭
会議、3日の撤饌とお掃除も会長不在
でつとめて頂き、発熱が長引いてし
まったせいで、完全復活は7日の夕方。
この間には部内への大祭参拝や支部例
会もありましたが、全て失礼させて頂
き、教会・支部に繋がる皆様には大変
なご迷惑をお掛けしてしまいました。
実は、私どもの教会では今年の活動
目標のひとつに「かしまの・かりもの

の理を心に納めましょう」と掲げさせ
て頂いております。昨年ある出来事か
ら、長年信仰している方でも、この「か
しまの・かりもの理」が実際には心に
納まって無い様に感じる事があり、改
めて皆がこの教えの大切さを思い出し
心に納めて通つて頂ける様、あえて目
標に掲げさせて頂きました。しかしな
がら、元旦からの身上お手入れで床に
伏し、自分の体の自由もままならぬ状
態で、信者さんに伝える事も出来ない
という状況を考えてみますと、「かしま
の・かりもの理」が一番納まつて
いないのは私自身であり、「まず自分
自身がしっかりとその理を心に納めな
さい」との親神様からの厳しいお仕込
みであったと感じずには居れません。
大教会では年祭活動後半に向けて「毎
日、喜び・感謝を声に出そう」との目
標をお打ち出し頂いております。それ
を通して親神様の御守護、お与えを感
じ、心から感謝出来る人になりましよ
うとの親の声掛けでありますので、
しっかりと心に留めて、実践し「かしま
の・かりもの理」を心に納めていき
たいと思っております。(や)

